愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	憲法		
担当者(Instructors)	鈴木 真理	配当年次(Dividend year)	1
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

「憲法は、人類が歴史上闘い獲ってきた人権やルールを国家に約束させたものであり、我々人間の尊厳を確保し、自由と人格的生存を守るものである。」 というと、「やっぱり憲法ってわからないなぁ。」「つまらないわ。」と思ってしまうかもしれません。 しかし、実は、憲法は、難しいものではなく、皆さんも含め、私たちの生活の隅々にまで及んでいる意外と身近なものなのです。また、近時よく耳にするSDGｓも、憲法の考え方とかなりの部分を共通するものです。 この講義では、そのことを皆さんに知ってもらいたいと思っています。 そこで、講義では、基本的な知識や概念の説明もしますが、それ以上に、具体的な裁判例や生の事例（私が弁護士として取り扱った事件や日々のTVニュースで報道されるもの等）を沢山紹介しつつ、分かりやすくかみ砕いて、面白く、楽しく説明することで、皆さんの理解を深めていきたいと思っています。 なお、公務員試験や教員採用試験にも対応可能なように、必要な知識を解説する予定ですので、それらの試験を視野に入れている方にとっても有益なものになると思います。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	オンデマンド（全１５回の講義を動画で視聴していただきます）。なお、第7回講義のあとにレポートの提出をしていただきます。そのレポート提出をもって、出席確認とします。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)
第1回	憲法とは何か	憲法とは何かを説明する。 歴史的経緯・制定過程から現在の日本国憲法の概要、平和主義まで。
第2回	人権総論①	人権とは何かを説明する。 人権の発生原理、保障と制約（公共の福祉論）、私人間効力まで。
第3回	人権総論②	人権とは何かを説明する。 人権享有主体性（外国人、法人、在監者、未成年者、皇族）まで。
第4回	人権各論①～１３条	憲法１３条について説明する。
第5回	人権各論②～１４条	憲法１４条について説明する。
第6回	人権各論③～１９条	憲法１９条について説明する。
第7回	人権各論④～２０条	憲法２０条について説明する。
第8回	人権各論⑤～２１条	憲法２１条について説明する（１）。
第9回	人権各論⑥～２１条	憲法２１条について説明する（２）。
第10回	人権各論⑦～２２条、２９条	憲法２２条及び憲法２９条について説明する。
第11回	人権各論⑧～２３条・２６条	憲法２３条及び憲法２６条について説明する。
第12回	人権各論⑨～２５条	憲法２５条について説明する。
第13回	統治①～国会・内閣	国会・内閣の機関設計がどのようになっているかについて説明する。
第14回	統治②～裁判所	裁判所の機関設計がどのようになっているか、司法権の限界はどこにあるか、について説明する。
第15回	統治③～地方自治	地方自治の機関設計がどのようになっているかについて説明する。

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

それぞれの回のテーマについて、各自の憲法の基本書、参考書の類を精読しておいてください（回にもよりますが、最低4時間程度は必要だと思います。）。参考図書欄に挙げた「判例百選」については目を通しておくと講義の理解がし易いと思います。 なお、参考図書欄に挙げたものは代表的な基本書ですが、難しいようであれば、入門書の類でも構いません。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

毎回、講義の中（「問題を解いてみよう」のコーナー）で、過去の公務員試験で出題された過去問を出題します。可能であれば、各自、事前

に予習をして解いてください。講義内で、解答と解説も行いますので、毎講義後、各自で復習をしてください。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019全学共通DP1	憲法についての基本的な知識（各種資格試験にも対応可能な知識を想定している。）、思考方法を習得（それは、全ての法的思考に繋がるものであり、社会を俯瞰して考察する能力の習得でもある。）することができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
100%		0%		0%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

毎回、テーマに関連した〇×問題を取扱い解説します。「授業内試験」という形式にはしませんが、期末試験は、授業で取り扱ったこれらの問題から出題します。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	「憲法　第７版」芦部信喜・高橋和之補訂（岩波書店）	
2	「憲法　第３版」渋谷秀樹（有斐閣）	
3	「憲法Ⅰ　第５版」、「憲法Ⅱ　第５版」野中俊彦、中村睦男、高橋和之、高見勝利（有斐閣）	
4	「日本国憲法論　第２版」佐藤幸治（法学叢書７）	
5	「憲法判例百選Ⅰ　第７版」、「憲法判例百選Ⅱ　第７版」（別冊ジュリスト）	